

国立公文書館所蔵明治初期建白書について

柴田 和夫

慶応3年12月14日「旧弊御一洗二付言路被洞開候間見込有之向者不拘貴賤無忌憚可致献言(後略)」との旧弊改革に関する建白を為さしむる旨の布告が出された。また翌戊辰の年の3月には、明治政府の基本的国策である五ヶ条の御誓文が出され、その文中を流れる中心思想の一つには明らかに「世論を採択する事」が読みとれる。明治政府はこれらをふまえて、公議所・待詔局(院)・集議院・左院・元老院といった諸官衙を設け、そこで世論採択策の一つとして建白書を受理し、審議することとした。次の文章は、戊辰の年9月7日物部轍之輔という人が弁事役所(弁事とは明治初年の総裁局の職員、参与職の公卿などがこれに任じ局の庶務を掌った)あてに差出した建白書の冒頭の部分である。

「御大政御一新二付而者下々之情実巨細被聞食候条御仁恤之御趣意奉体認忌諱不憚気付之儘奉書上候……」

ここには維新をむかえ「言路洞開」せられたことに対する深い感懐がうかがわれる。この書のみならず、この時期の多くの建白書に共通してみられるこうした感情は、当時の人々のいつわらざる実感であったように思われる。当国立公文書館には、明治初期の建白書が保存されており、政府の世論を採択する施策に対して建白という形式でこたえた人々の姿をうかがうことができる。そこで当館所蔵の資料のうちからその建白書を取りあげて少し調べてみたい。

四類建白書

当館には、旧内閣記録課により保存され、第四上書建白と分類された建白書がある。記録課では所管資料を十三に類別し、保存管理していた。それらは、第一公文録等、第二巡幸録、第三日記、第四上建白書……第十一記録材料……第十三官報等である。これらの資料は内閣総理大臣官房総務課(以下「総理府」という。)が引継ぎ保存していたが、昭和46年に当館の開館に伴い、移管を受けたものであり、当館所蔵資料の中心をなすものの一つといえよう。(注)右の分類のうち、第十一、記録材料の中にも建白書がみられるので、本稿では便宜上、四類建白書、十一類建白書と仮称し、なお、それ以外にもみられる建白書は「その他の建白書」等として区分することとする。四類建白書はまだ未整理のため閲覧に供されてはいないが、その概略をのべ読者諸氏の御参考に供したい。

本文書は63冊に整冊されている。保存状況は良く、虫喰その他による毀損は少ない。本文書には建白書(現本又は写)は延1709件、公文その他の史料が2172件、計3881件が収められている。慶応4年から明治13年までに政府が受理した建白書及びそれに関する公文書類であるが、明

治5年から7年までに集議院、左院で受付けたものが中心で質量ともに最も充実している。本史料中には公議所、待詔局（院）受付のものもなく、元老院のものも少ない。当時の新聞や当館の「公文録」その他に所収され世に紹介されている建白書もあるが、それ以外のものは、これが公開されて初めて日の目を見ることになるという性質のものと思われる。また建白書に付せられた公文書や欄外に記された文字印鑑等も史料的価値が高い。次に掲げるのは、内閣記録課により第四上書建白と分類されたもの（四類建白書）の目録である。

第四 上 書 建 白		類	冊	函	当館仮番号
—	建白留	四	三	—	1～3
—	函訴検閲録	四	三	—	4～6
—	建白書雑纂	四	—	—	7
—	建白書草稿録	四	—	—	8
—	建白書議案録	四	三	—	9～11
—	建白書	四	五	—	12～16
—	同	四	—	—	17
—	同	四	三	—	18
—	同	—	—	七十二	×
—	同	—	三	七十七	×
—	新潟高知両県下 国会開設建白	四	一 折	—	19
—	建白書	—	—	八十五	×
—	同	—	三	九十二	×
—	建白書	—	三	百	×
—	同	—	三	百八	×

— 同	明治十八年	—	三	百十五	×
— 同件名録		四	—	—	20
— 建白書	明治 五年	四	五	二	21 ~ 25
— 同 参考共	同 六年	四	八	二	26 ~ 33
— 建白書諸省分達簿	同	四	—	二	34
— 同 1巻ヨリ 9巻マデ	同 七年	四	九	二	35 ~ 43
— 同 10巻ヨリ 12巻マデ	同	四	三	三	44 ~ 46
— 編纂建白書 参考		四	七	三	47 ~ 53
— 同	同 七年	四	八	三	54 ~ 61
— 決議達案		四	—	三	62
— 建白書番外留		四	—	三	63

表中、当館仮番号とは、総理府より本文書の移管を受けた際に当館受入保存係が付した仮番号である。また、同欄中、×印は受入れの際既に現物がなかったものを示す。これらは明治11年以降の17冊である。後述「その他の建白書」のうち「公文録中の建白書」と冊数、年代ともに符合するからおそらくそれではないかと思われる。

(注) 総理府からの引継文書は約76,000冊ある。冊数が多く利用頻度が高いと思われるものから順次公開のための作業を始め、現在、公文録・太政類典・公文類聚・公文雑纂・叙位、叙勲、任免各裁可書・枢密院関係資料・官員録、職員録が公開され、閲覧に供されている。その他の資料もやがて公開されることになるが、公開のためには、いたんだ資料の修復・製本、目録台帳の作成、ラベル貼付といった手間のかかる作業を経なければならないので相当の期間を要する見込である。

四類建白書の内容

次の表は、各簿冊ごとに、その性格を明らかにしようとの考えから作成したものがある。

表中「公文」欄の 印は、公文書として、又は朱書墨書で建白書中に役所側の意見がうかがわ

れるもの。「目次」欄の印は、簿冊の最初の所に建白書名、受入番号、姓名、身分等の目次が付されているもの。「編集」欄は、その簿冊を編集した役所、〔 〕は筆者が付加えたもの。「建白数」欄は、簿冊中の建白書の件数。数字に（ ）がついているものは、現本又は写による建白書が簿冊中になく、公文書又は建白の件名のみのもを示す。

番号	建白書簿冊名	時代	公文	建白書			目次	編集	建白数
				現本	写	件名ノミ			
1	建白留	慶4 閏4.25 ~ 7.3					行政官	25	
2	〃	慶4.6 中旬 ~					〃	42	
3	〃	明元.10.晦 ~ 明元.11					〃	19	
4	函訴検閲録第一	明 2.4.24 ~ 7.28					〔留守官〕	(359)	
5	〃 第二	明 2.8.4 ~ 12.27					〔 〃 〕	(441)	
6	〃 第三	明 3.正 ~ 閏10					留守官	(461)	
7	明治七年建白書雑纂	明7			○		〔左院〕内務課	30	
8	明治七年建白書議按草稿録	明7					〃	(192)	
9	明治七年建白議按録	明7.2 ~ 7					〃	(113)	
10	明治七年 〃	明7.8 ~ 12					〃	(105)	
11	明治八年 〃	明8					〔 〃 〕カ	(57)	
12	諸建白書(1)	明7.1 ~ 4					〔正院〕内史本課	38	
13	〃 (2)	明7.5 ~ 8					〔正院内史本課〕	29	
14	建白書(3)	明7.4 ~ 9					〃	25	
15	建白書(4)	明7.10 ~ 12					〔正院〕内史本課	17	
16	諸建白書	明6.4 ~ 12					〃	61	
17	建白書	明7 ~ 明10					〔元老院〕カ	61	
18	明治八年建白書	明8					〔元老院〕第二科	36	
19	新潟高知両県下国会開設建白	明13.7					〔元老院〕	2	
20	建白書件名録	明8					〔正院〕内務課	(54)	
21	建白書(1)	明5.正 ~ 5					〔集議院〕	37	
22	〃 (2)	明5.6 ~ 8					〃	30	
23	〃 (3)	明5.8 ~ 9					〃	27	

24	" (4)	明 5.9 ~ 10			"	20
25	" (5)終	明 5.10 ~ 11			"	31
26	建白書 (1)	明 6.1 ~ 2			"	28
27	" (2)	明 6.2 ~ 3			"	19
28	" (3)	明 6.3			"	31
29	" (4)	明 6.4 ~ 6			"	32
30	" (5)	明 6.7 ~ 10			[左院]	45
31	" (6)	明 6.10 ~ 12			"	42
32	" (7)終	明 6.12			"	26
33	" 参考全	明 6.8 ~ 12			"	19
34	建白書諸省分達簿	明 6.1			[左院] 記録課	(59)
35	建白書(1)	明 7.1 ~ 2			[左院]	43
36	" (2)	明 7.2 ~ 3			"	41
37	" (3)	明 7.3 ~ 5			"	45
38	" (4)	明 7.5 ~ 6			"	41
39	" (5)	明 7.6 ~ 7			"	37
40	" (6)	明 7.7 ~ 8			"	21
41	" (7)	明 7.8 ~ 9			"	38
42	" (8)	明 7.9			"	28
43	" (9)	明 7.9 ~ 10			"	36
44	" (10)	明 7.10 ~ 11			"	45
45	" (11)	明 7.11 ~ 12			"	25
46	" (12)終	明 7.12			"	45
47	建白書 参考部(1)	明 7.1 ~ 3			"	21
48	" " (2)	明 7.3 ~ 5			[左院]	20
49	" " (3)	明 7.5 ~ 8			"	30
50	建白書 参考部(4)	明 7.8 ~ 9			"	21
51	" " (5)	明 7.9 ~ 10			"	9
52	" " (6)	明 7.10 ~ 11			"	29
53	" " (7)終	明 7.11 ~ 12			"	34
54	編纂建白書明治六年上陳之部	明 6	写		"	11
55	編纂建白書明治六年返却之部	明 6	"		"	(60)
56	編纂建白書明治六年参考留置之部	明 6	"	抄	"	16
57	編纂建白書明治七年上陳之部上	明 7	"		"	41
58	編纂建白書明治七年上陳之部中	明 7	"		"	40
59	編纂建白書明治七年上陳之部下	明 7	"		"	40
60	編纂建白書明治七年返却	明 7	"		"	(127)

61	編纂建白書明治七年参考	明 7	〃	抄		〃	152
62	決議達案	明 7.6			○	建白掛	(144)
63	建白書番外留	[明 5 . 6]					28
総 計							1709 (3881)

各簿冊の説明を少し加えたい。

4～6 函訴検閲録(レファレンスコード(以下省略): 建 00004100～建 00006100)

留守官管轄の諸官衙におかれた目安箱による建白書の処理簿である。建白書の本文はなく、その件名のみが記載され、その後に留守官の意見等が簡単に朱筆されている。留守官では、明治 2 年 4 月から 6 月までは、4・9 の日を、同年 7 月から 3 年閏 10 月までは 3・8 の日をもって「検閲」の日としていたが、件数の多寡により適宜検閲日を増減して、一回に 10～20 件ほどが審査されたようである。

8～11 建白書議案録(建 00008100～建 00011100)

左院内で建白書に付され回覧された決裁文書の原本又は写を集めたものである。8～11 は明治 7 年のもので、8 は 9・10 の草稿であり、朱筆で訂正され浄書されたものが 9・10 と分冊されている。11 は明治 8 年のものである。決裁文書のうちには、左院分課の内務課、法制課、財務課等から議長・副議長に出されたもの、左院議官内で回覧されたもの等がある。

19 新潟高知両県下国会開設建白(建 00019100)

一件は新潟県平民島田茂・山際七司の、他の 1 件は高知県氏族山川良水の、いずれも国会開設建白である。ところで「公文録」明治 13 年元老院の部に 3 冊 40 件の国会開設建白書がある。(公 02719100～02721100) が、右二件の建白書は本来この中に入るべきものと思われる。おそらく形が大きいため、別置され、四類に入れられたものである。

20 建白件名録(建 00020100)

明治 8 年左院分課内務課が処理した建白書の記録で、受領・立案・上申等の日付、受領者氏名等がわかる。

33 建白書 参考全(建 00033100)

30～32 のうち「参考」のみをぬき出し合綴したものである。建白書は正副 2 本提出させたため両者間に重複がある。したがって年代の一致する簿冊については正副本が分綴されている場合がある。

34 建白書諸省分達簿(建 00034100)

記録課で編集したもので、左院分課と各省との往復公文を綴ったものである。

47～53 建白書 参考部(建 00047100～建 00053100)

35～46 のうち参考部のみを抜き出し合綴したものである。

54～61 編纂建白書(建 00054100～建 00061100)

上陳之部は建白書の全文を、参考之部はその抄録したものを、返却之部はその件名をそれぞれ浄書編纂したものである。公文も朱書で浄写されている。(なお、「上陳」・「参考」・「返却」については後述)

- 54 は 26～32 のうち、上陳を集めたもの。
- 55 は 26～32 のうち、返却を集めたもの。
- 56 は 26～32 のうち、参考、留置を集めたもの。
- 57～59 は 35～46 のうち、上陳を集めたもの。
- 60 は 35～46 のうち、返却を集めたもの。
- 61 は 35～46 のうち、参考を集めたもの。
- 62 は決議達案

左院から建白者あての達文が中心をなす。

以上で簿冊の説明を終えるが、上陳・参考・留置・返却について少し付加しておく。

〔上陳〕とは、正院の審議に付されるため上申（陳）されたものである。公文中よりその例をひろってみると、「致審議候処分辞短ニシテ尽サザル所アリト雖モ頗ル其实況ヲ見ルニ足レリ（中略）建白書は参考ノ為致上陳候也」。また別の例では、「方今ノ大急務尤ノ建白ニ付其志ヲ嘉賞シ建白書ノ義は正院へ上申」。

〔参考・留置〕とは、参考のため左院に留置かれるものであるが、両者の区別は判然としない。

例、「他日参考ノ一顧ニモ可相成条本院へ留置可然」。「建白ノ趣旨採ルヘクシテ未タ之ヲ行フヘカラス依テ本人へ其旨説論建白書ハ他日参考ノ為メ留置候方可然」。

〔返却〕とは、当該建白書が採用されず本人に返却される筈のもの。

例「建言之趣御採用相成ヘキ廉無之被字存候条其旨申シ論シ下戻シ候方可然」。

四類建白書建白者氏名索引

次に掲げるのは、利用上の便宜のために作成した四類建白書の建白者の氏名索引である。五十音順とし、氏名の後の番号は簿冊番号を示す。其番号に〔 〕がないものは建白書を原本又は写で見ることができ、また数字に〔 〕があるものは、建白書以外の公文書等の所収を示す。建白者が連名である場合、原則として三名までを含め、それ以上は省略した。小数字は、その簿冊中に含まれる同一人の建白数を示す。なお 4～6 函訴検閲録についてはこの索引から除いた。

（別表参照）

その他の建白書

以上で四類建白書についての記述を終え、次に、当館所蔵のほかの建白書について略述してみたい。

（一）「公文録」中の建白書

「公文録」は官省使府県当の申達、稟請、照会など太政官が授受した諸公文を各省庁別、年月別に編纂したもので、明治元年から同 18 年まで 4078 冊という膨大な資料である。この中に建白書のみをまとめた簿冊が 20 冊あり 2092 件の建白書が所収されている。いずれも元老院が処理したものである。なお右の 20 冊以外の簿冊中にも個々の史料の中に建白書が散見し、それらは目録によってたんねんに拾うことは不可能ではないが、そのためにはかなりの時間を要することが予想されるので、本稿ではこの部分についてはふれないこととする。

ところで当館内閣文庫に「建白書一覧表」（レファレンスコードヨ 3 1 0 - 0 0 6 5）がある。本

書は活版 20 冊を合綴したもので明治八年四月から明治二十年までに元老院が受理した建白書を一覧表にしたものである。このうち明治十九年以降のものを除いて「公文録」中の建白書と比較したものが次表であるが、これによって明らかなように一覧表の建白書数 1843 件に対し「公文録」中のそれはわずかに 292 件。当館所蔵の元老院あて建白書に欠けた部分が多いことがわかるなお右「公文録」は閲覧に供されている。

年 月	簿 冊 名	レファレンスコード	冊数	建白書数	元老院建白受付数
明治 八年	公文録 元老院ノ部附録	公 01396100 ~ 01399100	4	117	390
九年					133
十年					101
十一年					115
十二年					158
十三年	公文録 元老院ノ部附録	公 02719100 ~ 02721100	3	40	198
十四年	公文録 公文附録元老院建白	公 03130100	1	12	190
十五年	同 右	公 0339410 ~ 03396100	3	63	170
十六年	同 右	公 03617100 ~ 03619100	3	18	106
十七年	同 右	公 03842100 ~ 03844100	3	20	109
十八年	同 右	公 04031100 ~ 04033100	3	22	128

(二) 十一類建白書

表紙に「元老院ヨリ引継 建白書仮綴」との表題が墨書されている。明治2年より10年までに、三条太政大臣、各参議、集議院、左院、元老院等にあてて出された216件の建白書が六冊(記00818100～記00822100)に仮綴されたものである。虫喰等によりかなりの毀損を受けている。未整理のため現在は閲覧できない。

(三) 「公文別録」中の建白書

「公文別録」は、その時点における重要国策等で、機密を要するものとして「公文録」や「公文類聚」から別綴されたものである。明治元年から昭和22年までの262冊あるが、この中に次表に示す4冊92件の建白書(別00053100～別00056100)がある。これらは公開準備中ではまもなく閲覧される。

簿 冊 名	時 代	建白数
諸建白書	明治3～6年	32件
上書建白録(1)	明治11年～16年	14件
“(2)	”	25件
“(3)	明治17年～18年	30件

今後の研究テーマ

ここで一応四類建白書等四種類の建白書についての記述を止めるが、力量不足によりここに述べることができなかった事項を気づくまま記してみたい。

(一) 受理された建白書の処理過程について

建白書や公文書中あるいはその欄外には様々な種類の記録が残されている。一例をあげれば明治7年12月18日付高山幸助2名の建白書(米価平均相場毎年確立之議)には次のような記録が残されている。

明治七年十二月十八日 片山豊良落手
題四百六十六号 財務
十二月廿三日 第五十号 財務受付
五月二日 返却
十二月廿二日 左院受付 建三百廿三号

こうした諸記録は、受理された建白書に添付された公文書とともにこの場合の有力な史料である。

(二) 建白書の新聞掲載について

日真新事誌等当時の新聞は建白書を掲載した。本文中の公文にも「新聞掲載不苦候哉」と

の伺が散見される。「どのような基準により、どれだけの建白書が、新聞に掲載されたか」も興味あるテーマと思われる。

(三) 建白書受付(取扱)規則の変遷について

建白書受付規則は明治2年10月に創定されて以来5年7月20日、6年2月3日、同3月3日、同7月7日、7年5月8日と追加、改定されたが、「何故に、またどんなふうに改定されたか」、史料に即してその変遷を調べてみるのも一つの研究テーマになると思う。例えば明治5年7月の規則では、建白受理の日を「毎月三八ノ日」(月6回)と限定しているが、6年7月の規則では、「休日ノ外毎日」と改正されている。建白の件数が増えたためと思われる。

以上明治初期太政官時代の建白書について当館所蔵のものについて、その概略を述べてきた。もとよりこれですべての建白書についてふれたわけではない。当館のものは受理すべき役所にあてられたものが大部分であるが、各地の図書館や史料館にも特定の個人あてあるいはその地方の役所にあてられた建白書類が所蔵されているものと思われる。特に国立国会図書館憲政資料室には、明治以降政府の高官であったひとの私文書が多数所蔵されており、三条実美文書、憲政史編纂解収集文書等には建白書の原本または写しが多数所蔵されている。

なお、「建白書」とは離れて、明治前期太政官時代の諸研究が遅れているとの事である。当館史料の特色の一つは、この太政官時代の史料にあるが、その利用度は引く利。その原因の一つは当館史料の紹介が少ないという点にあると思われる。もっとも開館以来日が浅く、まだ受け入れた資料の整理に手いっぱいというところであり、現状ではやむをえないと思われるが、おいおい業務が軌道にのるにつれ、目録の刊行等により所蔵史料を紹介することができると思う。

(公文書専門職)

(別表)建白書氏名索引

(ア)	
青木 韓三郎	2
青木 平七	32[55]
青崎 祐友	[10]3 39 41 432 45 49 502 52 53 614 [62]2
青島 馬之助	1
青島 能登守	1
青沼 嘉助	21
青山 恵次	22
関加井 円二	[11][20]
赤塚 輯	12 352 57[60]
秋月 毅	18
秋元 重光	[8][10]43 51 61[62]
秋元 善行	18
秋山 武安	44[60]
浅井 成章	[8][10]2 44 46 532 612 [62]2
葦沢 元龍	14 36 57
足立 長郷	18
阿部 大律	[8][9]38[60]
阿部 弘国	29[34]
阿部 浩	[9]39
阿部 恭己	48
阿部 頼民	25
天田 東	[11][20]
天田 真民	29[34]
新居 一郎	22
新居 敦二郎	30[55]
新井 安兵衛	[10]
荒木 敏吉	302[55]2
荒地 春樹	[8]2 [9] 37 57
有賀 良輔	24
有川 潜	213
有田 則知	18
有吉 三七	18
安藤 清人	[60]

安藤 善兵衛	302
安藤 行敬	[8][10][11]46 53 61
安藤 吉造	30 33 41 442 50 56[60]61[62]
(イ)	
飯島 道治郎	40 49 61[62]
飯田 務	30
飯田 年平	23
飯塚 方	[11][20]2 46 53 61
猪狩 公平	44[60]
(狩)公平	
猪狩 常隆	[8][10]14 42 59[62]
井川 升実	18
池上 日高	7
池田 謙蔵	[8][9]39 49 61[62]
池田 正董	37
井桁 長貞	24
池谷佐(作)平	46 53 61[62]
池谷 安五郎	46[60]
池松 豊詔(記)	12 35 57
井坂 右造	313 [55]2
伊坂 淑人	28
伊佐 敷鞆	37
伊沢 道一	16
伊沢 利三治	[8][9]13[20]38 44 58
石井 龍次	26 27
石上 暁了	[8]3[9]232 36 37 38[55]3 572 [60]
石川 九郎	31[55]
石川 舜台	[11][20]
石川 芳三郎	[8][10]41[60]
石川 与六	[11][20]
石倉 清左衛門	32
石黒 宗右衛門	18
石田 寛	432 522 61[62]
磯部 栄之助	45[60]
磯部 為吉	[8][9]35[60]
板垣 退助	35

一賀 道文	29[34]
市川 重胤	35 57
市川 信三郎	18 43 52 61[62]
市川 東崖	29[34]
市川 農夫也	26
市川 又右衛門	304
市川 又三	132 142 382 41 58 59[62]
一 元 徳	2
伊地知 秀俊	41 50 61[62]
市園力 正就力	2
一万田 如水	[8][9]28 32[34]54
一色 伊仲	18
出巻 退蔵	312 32 35 54[55]2 [60]
(巻 退蔵)	
伊東 大輔	23 632
伊藤 信興	[11]
伊藤 正直	22
伊藤 又次郎	29
伊藤 祐雪	18
伊藤 義典	[8][10]2 142 41 42 592 [62]2
板垣 義方	42 51
稲川 直清	17
稲葉 正邦	7[8][9]13 38 58
伊奈 平八	3
稲邨 素菴	[8][10]41 50 61[62]
乾 満昭	23 25
井上 毅	[8]12 14 37 39 582 [62]
井上 穎雄	[8][9]12 39 38 44 57[60]
井上 千春	48
井上 正香	24
今井 弘	40 49 61[62]
伊山 徳次郎	[8][9]36 47 61
入谷西 市佑	1
磐井 康海	27
岩城 隆知	27
岩倉 秀雅(雄)	[8][9]12 36 57

岩倉 与八	30
岩崎 田実也	16 30 313 33 54 [55]
岩崎 義憲	43 59
岩崎 吉郎	16 31 54
岩佐 富太郎	[10][11][20]41[60]
岩田 茂穂	252
岩淵 惟一	29
岩村 高俊	16
岩村 虎雄	1
岩本 晴之	23 30 32 33 352 54 56[60]2
(ウ)	
植木 発	25
植野 常備	14 42 59[62]
宇加地 新八	[8][9][10]14 17 38 40 43 49 58 59 61
臼井(杵)隆吉	[11][20]
宇田川 信延	[20]
宇陀 太郎	2
内田 亀吉	16
内田 宣弘	13 18 39 58
内野 信貫	242 252 29 63
内村 義城	44 45 52 53 612 [62]
内山 勲	31 33 56
内山 定吾	[11]17[20]
海上 胤平	45[60]
宇野 雲四郎	72 [8][9]352 47 61
梅園 春男	49
梅田 耕路	222 232 29 30
梅原 善祐	45 53
梅村 相安	21
浦田 長民	13 152 38 43 44 592 [62]2
浦山 春清	52 51[62]
(エ)	
江藤 新平	35
榎本 貞二郎	18
遠藤治郎左衛門	44
延暦寺 大衆	1

延曆寺 光聚坊	2
(才)	
大内 帰一	26
大内 晴巒	[8]3 [9][10]2 17 39 41 49[60]61[62]
大江 孤龍	24 26
大江 卓	163
大神 土佐守	3
大河平 実二	263
大喜 源太郎	[8][10]42 51 61[62]
大久保 鉄作	[10]15 46 59 62
大隈 重信	17
大倉 鏗二郎	[34]63
大河内 万丈	[9]39[60]
大貞 友蔵	25 63
大島 懿恭	35 47 61
大島 正武	38
大島 道義	18
大田 広域	39[60]
大塚 志良	[10]42 51 61[62]
大槻 文彦	[8][9]12 57
大伴 兼武	35[60]
鴻 雪瓜	7 38
大西 唯次郎	18
大貫 真浦	7 39 49
大野 恒徳	[11]17[20]
大庭	35
大原 壮平	[8][9]39 49 61[62]
大森 至	[10]42[60]
大屋 祐義	13 402 58 [60][62]
大屋野 十郎	[8][10]13 40 58[62]
岡崎 久遷	39 46 60
岡田 明義	21 22 27
岡田 逸次郎	[8][10]41[60]
岡田 吉兵衛	22
岡田 金蔵	18
岡田 善徳	63

岡田 註明	18
岡田 宣友	16
岡田 真	16 23 28 29 [34]3
岡田 貢	1
岡田 侑僊	38[60]
岡 寿清	18
岡野 伊平	31 33 56
岡野 七兵衛	36
岡野 滝太	45[60]
岡林 純一郎	7[8][9]212 31 362 37 472 48[55]613
(田)	
岡部 隼太	43 52 61[62]
岡部 真勝	30[55]
岡部 讓	29
岡村 和太郎	24[34]2
岡村 一方	[10]14 42 59[62]
岡本 健三郎	35
岡本 愿従	13 39 58[62]
岡本 巍	172
岡本 弥市	[8][9]
岡本 弥平治	[9]38 45[60]2
尾形 巖彦	17
小川 吉右衛門	352 [62]2
小川 敬(孜)成	[8][10]14 43 59
興津 景宗	41
興津 実	17
荻野 独円	[11][20]
小葉 昌造	29
奥田 最瀬	44 53 61[62]
小倉 和平	[8][10]43[60]
小河 一敏	[8][10]17 41 59
尾崎	12 35 57
小沢 有鄰	41[60]
小沢 惣右衛門	21 25
小沢 惣七力郎助	292
押久保 義徒	21

小関 敬直	16 31[55]
小田 為綱	31[55]2
織田 信敏	38 58
落合 経正	[20]
落合 直亮	28
音羽 清逸	25
小野	16
小埜 梓	17
小野 脩一郎	[11]17[20]
小野 甚三郎	12 22
尾畑 噓列	26
小原 昌二郎	7 39 49
小原 八之助	[8][10]39 44 46 49[60]2 61
小山田 省吾	3
小山田 帯刀	2
折田 年秀	[9]13 17 38 58
折原 貞哉	46
折目 栄	38 48 61[62]
(力)	
海瀬 重固	26
海江田 信義	[8][9]2 362 374 47 57 61
蠣崎 多浪	[8][9]14 36 38 41 57 58 59[62]
柿沼 広身	[8]39 49 61 [62]
葛西 音弥	[8][9]362 572
笠原 忠家	[11]4[20]2
梶川 升	[8][10]41[60]
糟谷 彦三郎	2
片山 郁三郎	242
片山 豊良	[8][9]38 49 61
片山 長門	1
片山 成教	63
勝瀬 壹平	46
勝部 静男	13 152 38 43 44 59[62]2
勝間 桂三郎	[8][9]33 56
加藤 清俊	262 27

加藤 清治	[8][9]37[60]
加藤 次郎	13
加藤 重任	28 29[34]
加藤 大次郎	31[55]2
加藤 彦四郎	22
加藤 正謙	44[60]
兼子 有文	32
金親 昇一郎	24
兼松 成言	43 44 52 53 612 [62]2
鹿野 良哉	[11][20]
上坂 景充	13 38
上坂 千景	38
上島 仲謙	[11][20]
上島 仲蔵	29
上条 広義	16
上園 中務	3
上村 直利	44 52 61[62]
亀口 復太郎	72[8][9]372 482 61
亀山 亀吉	18
茅原 信行	17
川井 智一	27
河崎 曾平	42 51
川路 利良	162
川島 十郎	22
川瀬 錦助	[8][10]45 53 61[62]
川野 雅吉	31[55]
川畑 伊右衛門	15 45 59[62]
川又(俣)甲子太郎	39 44 45 52[60]2 61[62]
川村 嬌一郎	252
河村 敬一郎	21
河邨 定交	23
川村 忠興	18
河原田 盛美	26 28[34]
神田 孝平	16
神原 精二	21
(キ)	

気賀 林	38 49 61[62]
岸川 才一郎	252
岸良 兼養	39 58[62]
北大路 常康	37
北方 蒙	45 53
北島 秀朝	17
北田 正薫	[8][9][60]
北原 稲雄	[9]37[60]
北村 勝成	[10]29 44 52 61[62]
北村 半之助	45[60]
木塚 貞斉	7 39 49[62]
吉川 市正	2
吉川 豊化	[9]39 49 61 [62]
木戸 孝允	12 162
木下 真弘	13
木下 助之	162
木原 章六	27
木村 藹吉	29
木村 重信	27[34]
木村 清(精)治郎	16 312 54
木村 半兵衛	17
木村 弥重	22
木村 安行力	28
吉良 右源	2
木呂子 退蔵	[10]14 41 59[62]
(ク)	
久我 正道	7 39 49 61[62]
陸 義猶	[8]2[9]3 12 362 572 58
草鹿 砥孫	2
草薙 尚志	[8][9]12 58
草野 重昌	18
草間 宣勝	12
楠永 直光	29[34]
楠本 正隆	132
工藤 市太郎	18
久保 七郎	44

久保 拙蔵	28 35[60]
久保 宅次郎	45[60]
窪田 次郎	26
久保田 精一	26
久保田 譲	26
熊谷 直得	22
熊野 九郎	17
倉垣 主鈴	2
倉次 諒	[8][9]13 36 57
栗田 寛	13 162 38 58
栗原 彝三	212
黒岩 利恭	27
黒川 治愿	372 48 61
黒木 与総司	30
黒瀬 文策	26
黒田 清隆	163
黒田 兆亮	43 52 61[62]
黒田 黙耳	27 28
黒山 敏行	[10]40[60]
(ケ)	
月 儼	2
(コ)	
行 光 坊	1
幸田 孫七	[11][20]
河内 儀人	7 [8][9]2 21 35 362 39 47
河野 通	17
広隆寺	1
国分 平	[8][10]45 53 61
国分 友諒	162
小崎 吉郎	17
小島 謙三	29
小島 百之	26
小曾根 栄	164 302 [55]
児玉 淳一郎	14 41 59
児玉 太吉	46 53
籠手田 安定	17

後藤 象二郎	35
後藤 清平	[8][9]13 36 57
小中村 清矩	16
小西 虎五郎	30 32 33[55]56
小林 賛	22 23 32[55]
小林 勝清	[11]2 15 17 18[20]2 222 44 59 [62]63
小林 耕作	46[60]
小林 権七	[8][10]41 56 [60]2
小林 如雲	[8][10]46 53 61[63]
小林 甚右衛門	13 303 38
小林 常男	7 [8][9][20]38 48 61
小林 久敬	63
小林 政七(郎)	41[60]
小林 与兵衛	272 [34]
小松俊 秀成	23
小松原 英太郎	41 50[62]
小松原 誠	63
小室 信夫	35
小森谷 信行	[8][10]43 52 61[62]
小山 正章	[8][9]12 21 36 37 57[60]
是恒 真揖	[8][10]40 49 61[62]
近藤 圭造	21
近藤 千別	37
近藤 貞助	2
近藤 秀琳	[8][10]2 41 46 53[60][62]
近藤 美	31[55]
(サ)	
西郷 従道	12
齊清 直	25 32[55]
齊藤 喜兵衛	46 53 61
齊藤 省三	[11][20]
齊藤 尚平	22
齊藤 筑前守	3
齊藤 ●三郎	[8][10]40[60]
齊藤 松寿	7[8]39 49 61

阪谷 素	12 35 57
坂部 小郎	32[55]
坂本 勇	212
坂本 是将	46 53 61
坂本 忍	7[8][9]37 48 61
坂元 純熙	162
坂本 永寿	16 23 26 29
相良 頼敏	14 41 59[62]
桜井 真寿美	18
桜井 弥五平(郎)	[8][9]12 35 36 57[60]
桜田 維義	632
佐久間 国三郎	38 49 61
佐久間 舜一郎	32[55]
佐々木 謙益	283[34]5
佐々木 轍	31 33 39 56
佐々木 彦平	302 41
佐々木 正茂	253
佐々木 素行	[9]
佐々 忠	18
佐田 介石	[8][10]2 [11]14 17[20]41 45 51 59[60]61[62]2
佐藤 志郎	28
佐藤 清(瑞)策	21 22 63
佐藤 精明	32 33 56
佐藤 鉄	7[8][9]38 49 61
佐藤 信寛	17
佐藤 真瀬	26
佐藤 八次郎	[10] 22
佐藤 斉	3
佐藤 藤吉	16 303 313 36 [55]2[60]
佐藤 政武	7[8]2[9]3 12 372 39 48 49 58 612 [62]
真田 通水	30[55]
佐野 正之助	18
佐羽内 右膳	31[55]
鮫島 尚信	16
猿渡 容盛	16
沢 簡徳	12

沢田 平吉	[11][20]
三条西 公允	48 61
山東 直砥	16
(シ)	
シイボルト	17
塩川 応平	2
志田 実	23
篠田 親行	7[9] 38 48 61 [62]
紫波 祐秋	[8][10]42[60]
柴原 和	14 165 17
渋谷 光信	24
島 惟精	17
島田 一郎	[9]12 362 572
島田 孝太郎	[8][9]30 31 33 36[55]56[60]
島田 順七	42 51[62]
島田 順造	31 33 56
斯真田 忠義	18
島田 忠兵衛	[8]36[60]
島田 豊憲	402
島地 黙雷	[8][9][11]382 482 612
島津 義禎	[8]2[9][10]17 352 36 38 42 46 47 52 572 59
島邨 泰	28[34]
清水 泰嶺	322[55]
清水 由右衛門	42[60]
下沢 保躬	17
下元 敏功	14 41
釈 雲 照	312 [55]2
秀 道	2
集堂 惟徳	63
荘野 胖悟	[8][10]43 52 61[62]
正村 弥市	[8][9][10]14 38 42 49 59 61 [62]
城門 司馬太	2
白井 道澄	[11]17[20]32 35 54
白野 夏雲	12 32 35 54[60]
新庄 誠一	30 40 42 50 51 612[62]2
新藤 祝	18

新林 要助	63
新保 祐吉	21
(ス)	
陶 不麻次郎	15 46 59[62]
菅 莊次郎	[11]
菅沼 森太郎	35[60]
菅原 雪斎	42[60]
杉浦 政信	26
杉村 濬	18
杉村 光隆	27[34]
杉山 岩三郎	14 16 31 54
杉山 元基	18
介川 道顕	17
鈴木 吉之進	[11]2[20]46
鈴木 外記	2
鈴木 清吉	30[55]
鈴木 徳次郎	[10]41 50 61
鈴木 寿蔵	[10]
鈴木 万之進	[60]2
鈴木 竜六	25
鈴関 万之進	352 47 61
須田 盛貞	17
澄川 拙三	18
陶山 昶	[11][20]22
須山 弘	25
須山 喜亮	[8]2[9][10]36 47 61
諏訪内 源司	46 53 61[62]
諏訪 芳次郎	22 23
(セ)	
正 教 防	1
関 勘四郎	30
瀬木 耕一郎	46
関 新平	41 50 61[62]
関本 寅	[11][20]2
関 義臣	16
千家 尊福	[9]13 26 38 58

禪 定 院	1
千里 律力造	25 26 632
(ソ)	
早田 勝任	[62]
早田 勝倫	15 44 59
副島 種臣	12 35 57
宗我 彦麿	23 24
藺田 三郎	[8][10]14 41 442 59[60]2
園田 三	[11][20]
園田 弥平太	37
染谷 重右衛門	18
(夕)	
太師堂 正義	27
高垣 尚志	39 43[60]
高木 昇造	35[60]
高木 真蔭	[8][9]39 58[62]
高崎 五六	172
高階 安芸守	1
高島 小八郎	402
高島 武脩	[8][10]41 50 61[62]
高田 耕造	[8][10]44 52 61[62]
高橋 詮証	17
高橋 睿力雄	[10]14 41 59[62]
高橋 完	21
高橋 金次郎	[11][20]
高橋 玄吾	45 46 53[60]61[62]
高橋 示澄	[11]18
高橋 莊右衛門	7[8][9]14 36 37 47 58 61
高橋 良顯	17
高松 直貞	32[55]
高見治 茂	21
高持 惣代	1
高屋 助八郎	36[60]
高山 幸助	[20]46
滝川 聞竜	[8][10]15 422 59[62]

武井 義	[8][10]44 52 61[62]
竹内 成由	[8][9]212 222 36[60]
竹内 宅衛	42 51 61[62]
竹内 寿平	43[60]
武尾 東一郎	2
武田 小太郎	2
武田 七郎	2
武田 秀真	7[8][9]37 48 61
武田 義昌	24
竹中 勘三郎	22
竹中 重固	25
竹中 寛	23
武部 ●蔵	[8][9]37[60]
竹村 嘉祖	22 25 63
竹村 太郎	[8][10]46 53 61[62]
武本 章三郎	32[55]
田島 重勝	46 53 61[62]
多田 利助	2
多田 義高	26
多々良 弘道	21
立入 奇一	[8]2[9][10][11]2 13 17[20] 392 402 41 44 45 49 50 582 [60]3 612 [62]4
立川 小兵衛	14 41 46 53 58 61[62]2
田月 宗介	21
田頭 祐寧	18
田中 市兵衛	2
田中 知邦	232
田中 不二麿	[8][9]
田中 正道	[8][10]32 42 50[55]61[62]
田中 連	3
田中 好彝	25 46 53 61[62]
田中 義廉	31 54
田中 義郎	233
田中 頼庸	[8][9]13 38 58
田中 利平	32[55]
田辺 義悱	18

田辺 良顕	162
谷野 務本	30
田村 新三郎	46[60]
田村 三泰	[11]217[20]
為郷 了悟	7[8][9]39 61
田結 敬一	22
榑井 籐吉	7[8]2[9][10]13 31 32 35 37 40 47[55] 582 61[62]
太郎館 秀賢	35 39 47 61
(子)	
千賀 道安	[9]39[60]
千葉 貞幹	[11][20]
長興寺 春倪	23
丁埜 遠影	162
(ツ)	
塚本 万兵衛	31[55]
月岡 儀兵衛	[11]46
津久井 井平	22
辻 貞中	24
辻 弘直	45[60]
辻 礼輔	16
津田 作次郎	18
津田 長将	38
津田 敬之	26 28
土屋 金生	12 32 54
筒井 明俊	33 56
堤内 清五郎	31[55]
恒石 哲慧	18
恒木 常吉	41
角田 為知	16 30 54
角田 元貞	31 33 56
(テ)	
諦 恵	2
手塚 強	27 28 39 49 61
手塚 寿雄	15 43 59[62]
寺尾 資地	45[60]
(ト)	

土居 光華	21
東郷 岸郎	12
東 遠江	23 33
遠山 角助	[8]3[9]3 122 36 373 572
時任 為基	16
徳尾野 信成	44[60]
徳田 寛豊	[8][10]39 41 43[60]2
徳永 寛明	[8][10]41[60]
得法 悟山	30[55]
戸栗 菌右衛門	[8]4[10]2 40 44[60]2
常世 長胤	7[8][9]13 38
土志田 周作	27 28
戸田 玄成	17
戸田 忠友	[8][9]39 49 61[62]
戸田 正保	30 47[55]
十津川郷土惣中	1
鳥取県権令弁参事	[8][9]
土堤内 市松	72 35 36 382 47 482 612
富島 永誉	[11]17[20]
富田 厚積	28[34]
富永 景知	27 28
富永 禄右衛門	[8]37
豊崎 道雅	254
豊島 鄙奴	17
豊力田 豊	30
豊永 高義	23
(ナ)	
内藤 讚岐	1
内藤 藤兵衛	1
内藤 山城	2
直井 祐之助	[8][10]44 53 61[62]
中井 広生	29
中尾 寿一	172
中川 真節	43[60]
中川 義純	16

中河 陸奥	1
中沢 有年	29[34]39[60]
中沢 千蔵	[10]46[60]
中島 清民	15
中島 茂洲	[20]46
中島 仁左衛門	[11][20]46[60]
中島 信行	132
中田 若丸	1
中沼 清蔵	17 46 59[62]
中野 梧一	12
中野 周吉	212
中浜 万次郎	30[55]
中原 正道	35 57
中村 上総	1
中村 郡平	12
中村 舎人	1
中村 黙二	41[60]
中山 信安	17
中山 正文	40 49 61[62]
半井 真澄	[8][9]36 47 61
長江 剛介	17 432 522 [60] 612[62]
長尾 掃部	2
長尾 義連	[8][9]14 37 57
長岡 章生	[8][10]412 [60]
長岡 知義	29
長利 仲聴	29[34]
永沼 運暁	30 33[55]
永山 武四郎	16
永山 盛弘	16 37 57
永山 安国	39
名倉 信敦	43 44 52 61[62]
夏目 千尋	[20]
難波江 孫八	[8][9]38
鍋島 幹	17
並松 一枝	[8][10]43 52 61[62]
成田 正直	29

南部 陳	[10]13 41 50 61[62]
(二)	
新村 安兵衛	[8]41 50 61
西潟 納	12 35 57
西川 深蔵	63
西川 須賀雄	[8][10]40 49 61[62]
西野 晋造	25 26 30[55]
西野 友保	[8][9]12 35 57
西野 徳勝	7[8][9]13 38 58
西村 勝郎	[11][20]
西村 茂樹	[8][9]12 36 57
西村 伝助	24
西本 正道	[8][10]15 43[62]
西森 真太郎	22
新田 邦光	30[55]
二宮 但馬	23
仁戸田 正平	46 53 61[62]
丹羽瀨 木神	1
忍 昌	2
(ネ)	
根村司馬平綱紀	2 23
根本 茂樹	[8][9]12 36 57
(ノ)	
野上 一九郎	39 49 61
野口 福三郎	44
野口 真折	46[60]
野崎 清太郎	24
野田 幸十郎	[8][10]404 49 61[62]
野田 伴吉	7[8][9]39 49 61[62]
野村 三四郎	43
野村 彦四郎	38
(ハ)	
間 反兵衛	1
橋爪 鏝一郎	39[60]

橋爪 幸昌	[8][9]12 37 57
羽柴 五郎兵衛	32 36 44 47[60]
橋本 加九十郎	18
長谷川 準也	37
長谷川 鉄之進	1
長谷部 将曹	43
八谷 藤五	383
服部 友徳	22 63
服部 珉隋	7 39
服部 嘉陳	17 36 57
花坂 圓	35[60]
花房 外記	22 63
浜口 忠二郎	17
浜田 兼徳	44 52 61[62]
林 佐一	[8]2[10]2 42 44 51 53 612 622
林 次郎助	21
林 立守	[20]
林 友章	[10]
林 八郎右衛門	63
林部 利輔	302
林 雄兵衛	37
原 昌	14 41[62]
原 茂胤	[8][10]14 42 59[62]
原 惣右衛門	[8]63
原田 助治郎	2
原田 東馬	23 632
原田 好	17
原田 隆造	[8][10]312 32 332 46 54 56 59[62]
針谷 重懋	29
伴野 盛発	[8][9]12 30[34]36 57
(七)	
干河岸 寛一	[8][9]39 49 61
東 宗閑	26
肥後 平八	[8][9][60]
久島 彦次郎	[8][10]37 61[62]
久松次郎左衛門	2

葵川 信近	30[55]
樋田 利晴	18
日野 靈端	49[62]
平井 主殿	2
平岡 鉄之助	322[55]
平賀 義質	15 44 59[62]
比良田 堯衡	30 33 56
平野 耕平	283
平野 知雄	39
平山 省斉	7 38
平山 靖彦	15 53 59[62]
広沢 太郎	35 47 61
広瀬 為興	[9]13 392 58[62]
広瀬 文炳	26
弘田 貫二郎	[9]13 392 58[62]
広田 節郎	[11][20]
広田 正郎	18
弘 鴻	7[8][9]36 47 61
兵頭 認	2
兵頭 正認	16
(フ)	
ブアソナゾ	17
深尾 儀兵衛	26 27 30[34]
深田 知貞	28
深津 登門	[8][9]
深谷 憲章	45[60]
福井 武	25 26[34]
福島 九成	16
福島 昇	21 232 63
福田 弥七	31[55]
福羽 美静	17
福原 利三郎	7[8][9]37 48 61
藤井 信彦	37
藤江 二郎三郎	[10][11]18[20]425 504 61[62]
藤岡 公守	46[60]
藤 寛正	362 37

布治 帰一郎	41 44[60]
藤沢 次謙	16
藤田 健太郎	[10]2[11]2[20]452 53[60]61[62]
藤田 長次郎	72 [8]2[9]3[10]35 36 382 43 482 59
藤森 善一	[8][10]2 45 464 534 613 [62]3
藤吉	63
藤原 和三郎	22
布施 雄二	7[8][9]37 48 61
貌 刺 屈	[8]36 57
古川 武次郎	[8][10]43[60]
古沢 迂郎	35
古谷 雪綱	172 35[60]
古谷 頼長	[8][9][60]
(へ)	
別所 行海	30
(木)	
法 貴 発	35 46 61
法家寺 賢亮	2
星野 鐘里	22
星野 蹉玖磨	14 41[62]
星野 重郷	30[55]
星 雄記	7[8]2[9]2 372 48 58 61
細川 潤次郎	16 17
細川 広世	[8][9]362
細田 称平	24 252
細野 貞良	232
堀野 松之助	[11][20]
堀 秀之	7 38
本郷 雅郎	39 49
本多 新	17 32 46 59[62]
本多 甚九郎	21
本多 頼母	2
(マ)	
前川 湊力	27
前田 直信	[8][9]13 38 58[62]

前浪 大助	25
禎田 斯興	24
禎田 斯從	24
蒔田 忠正	21
牧野 重正	[8][10]42[60]
牧野 直徳	43 52 61[62]
増川 右記	30
増田 耕曹	[11][20]41 50 61[62]
増田 作蔵	41 50[62]
増田 繁華	17
増田 宋太郎	252
増田 長雄	[8][9]12 13 37 58
益森 英亮	[60]
町田 景慶	16
町田 栗庵	45 53
松井 強哉	[9]12 37 57
松井 郷左衛門	2
松井 正幹	[8][10]14 42 59[62]
松石 弥一郎	32[55]
松岡 栄作	32 36 47[55]61
松尾 治太郎	46[60]
松雅 栄昇	13 40 41 50 58 61[62]
松方 正義	17
松下 意興	30
松平 三守	3
松田 敏足	[10]40 50 61[62]
松波 徹翁	2
松村 辰雅	26
松室 亀三	[11]17 [20]
松本 六四郎	15 44
万里小路 通房	17
間宮 魚用	7[9]29 39 49[62]
間宮 彦一郎	[8]40 49 61[62]
馬屋原 彰	37 58
丸岡 莞爾	162 372
丸谷 新八	16 312 54

丸山 秀就	24
馬渡 作二郎	16
(ミ)	
三浦 成弁	15 44[62]
三浦 三興	1
三上 宣之	41
水品 梅処	21
水島 均	28 292
水野 明彦	[8][9]12 17 37 57
水野 大炊頭	2
水野 隆其	36
水原 久雄	16
瑞穂屋 卯三郎	21
三田 左内	24 63
三井 海運	27
南 和麿	43 52 61[62]
箕浦 盈吉	7[8][9]48 61
箕浦 源之丞	37
箕形 伝	27
三村 邦功	24
宮内 猪三郎	[8][10]42 50 61[62]
宮川 房之	163
宮城 時亮	16
宮口 裕平	33 56
宮倉 順栄	[8][10]45 53 61[62]
三宅 謙二郎	30[55]
宮崎 簡亮	162 21[34]
宮崎 真郷	12 35 57
宮崎 忠兵衛	142 41
宮下 市太夫	1
宮田 仲透	[8][10]15 43 59[62]
宮地 六郎	23
宮野 好古	352
宮原 小三郎	31 33 56
宮本 政雄(維)	[8][10]43 52 61[62]
明蓮寺 淡雲	32

三好	35
三吉 周亮	17
三好 保弘	18
三輪田 綱一郎	3
三輪 ●造	45 53
(ム)	
向井 新兵衛	29
武藤 旭山	17
武藤 外記	12
宗林 精翁	44
村井 強哉	37
村井 久四郎	30
村島 泰亮	44 52 61[62]
邨● 誠一郎	31[55]
連 光俊	32
村松 内蔵之助	1
村山 泰助	28
室田 充実	16[34]
(モ)	
本山 茂任	17
元吉 政治	39
物部 轍之助	22
百々 俊彦	[11]2[20]2
森川 尚村	12 35 57
森 権十郎	38
森田 冬蔵	17
森田 安治	39[60]
森 藤右衛門	[8][10]152 43 45 592 [62]2
森 斉	28
森 復吉郎	14 41
諸伏 長十郎	30[55]
(ヤ)	
柳沢 和助	132 303 382
柳沢 良衛	[8]2[10]2 442 522 612[62]2
八木 雕	7[9]13 38
矢崎 右京	1

安池 新八郎	12
安岡 珍磨	39 58
安岡 良亮	38 58
安田 和泉塚	32
安田 定則	16 37 57
安田 安	31 33 56
安場 保和	132 162 17
矢土 勝之	27
山岡 伊箇志	29
山川 良水	[11][20]
山岸 富三郎	43
山城 ●三	[34]
山城 祐之	29
山口 逸郎	[8][10]44 52 61
山口 三郎	32 35[55][60]
山口 周珉	29[34]
山口 惣兵衛	43 46[60]2
山口 堪兵衛	[10]
山崎 清良	32[55]
山沢 感	302
山下 晋	22
山下 政愛	7 13 25 38
山科 生幹	303 [55]3 632
山田 武甫	17
山田 俊蔵	27[34]
山田 信胤	37
山田 藤太郎	44[60]
山田 正隆	37 48 61
山田 迪吉	18
山田 行元	31 35[55][60]
山西 敏	26 28
山原 千秋	[8][10]43 52 61[62]
山本 克	[8][9]12 37 57
山本 謙斉	372 48[60]61
山本 士哲	[8][9]12 36 61
山本 宗佑	2

山本 東次郎	44 53 61[62]
山脇 巍	41 50[62]
(二)	
由利 公正	35
(三)	
横瀬 文彦	45 59[62]
横田 保之助	[9]40 49 61[62]
吉井 秀太郎	452
吉岡 弘毅	35 47 61
芳川 俊雄	23
吉田 景範	[8][10]41[60]
吉田 勘解由	1
吉武 玄敬	[8][10]42 51 61[62]
吉武 静夫	[8][10]46 53 61
吉田 源之助	[8][10]46[60]
吉田 次郎	[8][9]13 38 58
吉田 清貴	16
吉田 千足	[8][10]15 53 59[62]
吉田 温一郎	42 51
吉野 芳次郎	44 46[60]2
好本 鍊五	27
依田 千柄	[11][20]442 522 612[62]
依田 道直	35[60]
米津 小太夫	2
米村 道治郎	18
(四)	
竜 忠 景	63
享 間	25
臨時御用取調掛	172
若狭 二助	38[60]
若狭 弥兵衛	27 29 30 35[60]
吾妻 政男	31[55]
若林 市蔵	18
脇田 種	[11][20]
脇屋 至誠	43[60]
和田 鋭夫	39

和田 香苗	22
和田 善次郎	7[8][9]38 49 61
渡辺 意仙	[11][20]
渡辺 清	124 172
渡辺 豪顕	26
渡辺 小大郎	18
渡辺 習	31[55]
渡辺 泰輔	3
渡辺 碩也	63
渡辺 中	28
渡辺 昇	16
渡 新大郎	2
和田里 忠七	31 33 56